

## 愛知県東三河地域のコムギ作圃場における 播種前耕起と除草剤によるネズミムギの体系防除

森崎耕平<sup>1)</sup>・寺島竹彦<sup>2)</sup>・遠山孝通<sup>1)</sup>・森賢一郎<sup>3)</sup>・加藤 満<sup>1)</sup>

雑草研究63(3):89-95(2018)

**摘要\***：愛知県東三河地域のコムギ連作圃場において、播種前耕起と除草剤によるネズミムギの防除体系を検討した。前年作の発生程度が「甚」の圃場においても播種18～28日前の耕起－播種前のジクワット・パラコート液剤処理－播種後出芽前の土壌処理型除草剤(エスプロカルブ・ジフルフェニカン乳剤)－コムギ2葉期のプロスルホカルブ乳剤による防除体系(体系1)でネズミムギを防除できることが明らかとなった。また、前年作の発生程度が「多～中」の圃場では体系1から播種18～28日前の耕起を省略し、播種前のジクワット・パラコート液剤処理と土壌処理型除草剤の体系処理(体系4)、前年の発生程度が「少」より少ない圃場では体系4からさらにコムギ2葉期の土壌処理型除草剤を省略した体系5によりネズミムギが防除できることが明らかとなった。体系1は播種18～28日前耕起の実施により播種遅延を伴うが、播種量を増量することによりコムギの子実重が381～461 g/m<sup>2</sup>確保できた。

\*原文には「摘要」がないため、新たに抜粋・要約した。

**キーワード**：コムギ、ネズミムギ、体系防除、播種前耕起、除草剤

## Evaluation of Weed Control System Including Pre-plant Tillage and Pre-emergence Herbicides, for Italian Ryegrass in Wheat Fields, in Higashimikawa Area, Aichi

MORISAKI Kohei, TERASHIMA Takehiko, TOOYAMA Takamichi,  
MORI Kenichiro and KATO Mitsuru

Journal of Weed Science and Technology 63(3):89-95(2018)

---

<sup>1)</sup>作物研究部 <sup>2)</sup>東三河農林水産事務所(現新城設楽農林水産事務所) <sup>3)</sup>東三河農林水産事務所  
(転載許可不要)